昭和四年三月廿九日
第三種郵便物認可

東北日日新聞

年中無休刊
本紙一ヶ月三十錢 郵税一五錢一部三錢
廣告料一行三十錢 場所指定二〇錢增
發行兼編輯印刷人 濱山顯
發行所 福島縣石城郡平町白銀町十番地 東北日日新聞社 電八三

社說

政府と實業團体と勤勞階級との三にらみ合ひ政府が勞働組合法案を通常議會に上程して、新らしい覺悟をみせやうとしたことから端を發し、全國的の資本家階級にまき起つた、嵐のごとき輿論の波が、みる〳〵うちに波及して、資本家側の戰線統一となり、政府への肉迫となつた。

二十八團体の政府への抗爭が、この法案の死生を劃するであらう。

無産政黨の各闘將も、戰線統一をやつて、政府へその侮るべからざる氣勢をみせてゐる。

民政黨内閣の提唱するものが、いつも朝令普改であるとの評さへあることにかんがみ、勞働組合法案には覺悟ある態度を明示してゐる。

何故であらう、それは民政黨の結成分子は、無産階級が多量にふくまれてゐるからである。

政友會への反動としての人氣が、民政黨の强味としてのみ考へられないであらう、短命であるものは人氣である。

そこで民政黨としての惱みは、いかにこの壓倒的人氣を永遠に維持するかといふことである。

人氣の浮動勢力をして實質あるものに變化せしむるのには、大衆の要望を迎合しなければならぬであらう。

押し切つて行かうとする所に無理があつても、なくとも民政黨の惱みであり、若し、實業團体への降伏を意味する修正があるとしても、たとひ幽靈のやうな組合法でも必ずや生れるであらう。

資本家と、政府と、無産階級との中に、勞働組合法が悲鳴を擧げてゐる。

第二次家屋税 調査委員會議

七月一日平町に於て擧行

八町二十四ケ村の選良が

本郡八町二十四ケ村の第二次家調委員會議はいよ〳〵來る七月一日午前八時から四日間平町各種團体事務所樓上に於て開催する事に決定した

第一次家屋 賃貸調査

不完全の儘終る

石城郡下各町村の家屋賃貸價格調査は平内郷の兩町村は十二日他は十一日で終了したが各町村を通じ最初の事とて下調査の標準に一定を欠いて居り原案に修正を要するもの極めて多くためにはかゞ〳〵しくなく三日間の會期中に全部の査定を終つたものは殆んとない有樣で平町でも十一日までには僅かに原案の三分の一にもおよばない狀態で十二日は全馬力で行つたが遂に終了を見なかつたよつて何れも不完全のまゝ第二會に廻さるゝ譯で全く第一次委員會は無意義に終つた始末である

勞働法案反對

負擔輕減を陳情

日本商工會議所では十二日午前十時より勞働組合法案反對及び國民負擔輕減の件につき政府に陳情すること、なり首相官邸には井坂副會長大澤、森、渡邊の諸氏内相官邸には安宅弥吉氏他諸氏が陳情に赴き午前十一時より更らに合同して商工大臣に對して陳情するところあつた

平町會議員より 町會招集を要求

數々の重要問題を擁して

平町では五年度に入つてから未だ一度も町會を開かず土木委員が五月限りで滿期となつて居り且つ學務委員青沼鋒太郎氏が辞退したなどその他綠川坂本兩町議の當選無効の行政訴訟の經過等種々重要問題があるので今回青沼町議外二十名の町議から町會招集の要求書を伏見町長宛に提出した町會の要求書を出された事は同町として今回が始めてゞあり他にも餘り例のない事で相當々局に非難があるそれがため町當局は非常に狼狽した模樣で早速準備にちやく手する筈であると

▲詐欺の告訴

平町城山三二岡野義雄(一九)假名は去る八日午前七時ころ平町四丁目魚問屋松崎佐市方より岡升と稱し魚價格十一圓四十八錢を買入れ代金を支拂はずその儘逃走行衛をくらましたので前記佐市より今十三日平署へ詐欺の告訴を提起した

▲出雲の神樣

神樣や佛樣のおさい錢も不況で減少の折柄縁むすびの神出雲大社は最近激增昨一年間に七萬六千圓

臟物故買で 古物商六名起訴か

電線専門の老賊から

盜品を買つて届出ない爲

昨報平署に逮捕された前科三犯の老賊高久喜一(五〇)はその後引續き嚴重取調べをなしてゐるがそれにつれて過般平署から管內古物商に對し電話線を賣却に來たものは署に届出する樣に達しておいたにも拘らず內郷村綴小山寅吉(五五)同菅野廣春(三六)平町長橋町清野彦太郎(五五)同新川町鈴木正治(三三)湯本町三函三瓶賢次(三三)同長山甚造(四三)の六名は件の喜一から買つて居きながら平署に届出をしなかつたので嚴重取調べの結果營業取消しをなし近く臟物故買の廉を以て起訴するらしいと

石城郡下 水が不足

小名濱方部では 苗代が枯死

石城郡下は引續く旱天に早くも水不足をきたし田植を控えて各河川は何れもコカツし苗代の用水にも困つてゐる所が多く特に玉川小名濱鮫川沿岸は全く田植が不可能となり苗代及田甫は龜裂を生じその面積二百餘町歩に及んで居り十七八日頃からそろ〳〵田植の耕耘準備も出來ずその上苗代期が永くなるので農民は空を仰いで降雨を祈つてゐる有樣で郡農會では係員を派し調査中であるが植付期に差しかゝつてゐる町村は勿論のこと現在用水不足を告げてゐる地方は植付不能の恐れを抱き大恐慌を來たしてゐる

繭市況

四倉市場

氣配やゝよし

四倉市場十二日の總出荷は三千二百三十一貫で白繭二千八百四十四貫黃繭三百八十七貫で氣配やゝ良好白三十四掛け黃三十二掛けで相場は左の如くである

白繭高値 四〇、八〇錢
安値 三一、五〇
買馴 三三、七〇
黃繭高値 三八、五〇
安値 三三、九〇
買馴 三五、八〇

勿來市場

昨日から開市

勿來繭市場は十二日から開場した好天氣のため出荷八百貫に達した高値四圓十五錢安値三圓六十錢平均三圓九十錢氣配は非常に良好であつた

業田市場

買氣また良好

植田繭市場十二日の出廻りは五百五十一貫高値四圓二十一錢安直三圓三十六錢馴れ三圓六十八錢で品質一般に良く買氣良好であつた

▲取消

一昨夕刊紙上に平町六間門一七賣藥行商人鈴木芳枝が毎日二十五瓩入劇藥鹽化アフトリナリンをせん息藥と稱し分賣した記事は私のことと存じますが實は辯護士漆畑元吉氏よりの注文で宇佐美氏外二軒より一本二圓六十錢にて讓つて頂き二圓六十錢で漆畑氏に届けた迄で分賣等の事實又は平署の取調べを受けたことなく實際と相違してゐますから一寸お知らせ迄

平町六間門
吉田芳枝

筆洗ふ前に

さくら花が散つて、いつしか新綠したゝる初夏となつて、すゐ蓮の葉もみる〳〵うちに大きくなつた。

女のからだに、うすものがぴッたりと寄りそふてゐるが、太い線しなやかな線が街頭に散見する果實屋の店が、はッきりと夏の情景を描き出してゐるし、凡てが……夏だ

下町からこの小家へ來てから、もう六ヶ月ぐらゐにはならう。

道をへだてた畑地のムギが一寸ぐらゐしかなかつたのがいつしか、風にゆられて波うつてゐる。

そんなふうにみてゐた畑地から、パチ〳〵とムギを燒いてゐる音がする。

いつもみる農人で、いかにも謹直らしい人と、むすこらしい若い青年と三人の手に燒かれてゐるたそがれが、そろ〳〵と歩いてくる。

薄夕暗のなかで、むぎを燒く農人の姿は、赤い火のなかにくッきりと浮んでくる。

パチ〳〵と音するごとに農人の手にある、ムギ把の先から赤い、小さい、火玉が美しくぽとり〳〵落ちる。

むぎの穗首であらう。

畑地の行きどまりが、一面の竹やぶで、その上の赤い屋根がのぞいてゐる本田朝忠君の精進にいそしむ藝術の殿堂である。

美しい情熱に燃えて、のみを執る人のそばには、理解ある若い女性の輝きある力が支へてゐると聞く、靜かに、清澄な境地にゐる人の生活を想ふてみる。

無心にむぎを燒くことをきらつてゐる、近代文明そのものは、土から離れて墮落をしてゐる。

土の哲學を知らうとしない所にも、人間としてのみぢめな人生がある

人間としての破産そのものは土を捨てたからである。

農人になれなかつたのは敎養といふ小さいものに執着があつたからである

何んといふ邪まな者であらうこの小ッぽけな人間の誇りを捨てかねる者の心、無智はある意味での大聖である。

小家に夜が來た。

農人もそろ〳〵かへるであらう……。

「日光見學の記」

八幡小路　殿木磐山

平第一、第三小學生の日光方面修學旅行に付添ひとして行きたる時のことをよめる

一

春の日未だ明けきらぬ
もや立ちこむる朝まだき
希望に滿ちし少年を
乗せたる汽車は立ちにけり

二

勿來の關を後にして
未知の他縣を漂遊し
しかも彼等の前途には
幾十百の道ぞ待つ

三

長の車中もつゝがなく
果てしぬ疑問を胸に秘め
日の御光る日光の
驛に飛び立つ籠の鳥

四

初めて打乗る電車にも
異常の驚異は有りぬるを
一里も長き町並みに
再び起る大驚異

五

大谷の清流音高く
朱塗りの神橋彌高く
望む河畔に車を降りて
進むや小胸轟かせ

六

初代將軍家康の
御靈の眠る東照宮
神々しきも優美なる
我等の心は躍りけり

七

ひねもす眺めて飽かずてふ
陽明門に口を開き
三猿さまや眠り猫
再び首を傾けぬ

八

古代建築眼のあたり
見學し終えたる吾々は
再び電車に搭乘し
馬返しにはつきにける

九

四十有餘の曲り道
それを歩みて疲れざる
健脚の程も知られて
漸くつきし華嚴の瀧

一〇

ごう〳〵響く暴音は
夕闇迫る山々に
餘韻を殘して打奮ふ
その物凄さ壯快さ

一一

中禪寺湖の畔をぞ
得たる吾等の得意さば
何にたとへん六日月の
月は湖水に浮びけり

一二

夢に故郷の母にあひ
土産話に花咲かせ
うつゝに彼の父を呼ぶ
河畔の夢は破れけり

一三

昨日の疲れ何處へやら
勇みて走るを止めつゝ
男体山の秀峯に
別れを告げて下山せり

一四

馬返しより電車にて
日光驛に一筋に
それより汽車に打乘りて
宇都宮にと急げけり

一五

二度の乗換へ待遠く
父母在す平の地へ
住める所は都ぞと
つきしは六時二十二分

移轉廣告

店舗改築中三丁目横町藤市蒲鉾店向へ一時移轉致しました

移轉中大特賣

夏トンビ　レンコート　合着セビロ…大見切

作業ズボン	六十錢
小學生通學服	五十錢
夏トンビ	七圓五十錢
黑セル上着	四圓五十錢
ネズミセル上着	三圓八十錢
男女ゴム引マント	一圓十五錢

假營業所　平町三丁目（佐川洋服店横）

正札堂洋服店　電話四三六番

勸業債券　兩替
復興債券　金融

多田井質店　電話八六九

外科一般（入院隨意）
内臟外科專門
花柳病科

平町六丁目（橋際）

木村外科醫院　電話三〇九番

おでん
小料理
おそば
氷水
ソーダ水
ミツ豆
生ビール
通人食堂
西村
横丁

夏物新製品大賣出し

味溢るゝ今夏の流行品を
各種豊富に取揃へて
品質に價格に自信ある新安値品

昭和五年流行界の
婦人倶樂部ゆかた
昭和調婦女界ゆかた
リーグ戰ゆかた
表現ゆかた
繪羽模樣ゆかた
外十數種
中形各種陳列

粹で高尚な
絽廣帯と單帯陳列　於階上特賣
手拭中形　六十五錢
ホロかや　五十五錢
友仙モスリン尺九錢
絽錦紗、絹友禪、銘仙、モス友仙、モス着尺、蚊帳

三井呉服店　海岸線平町

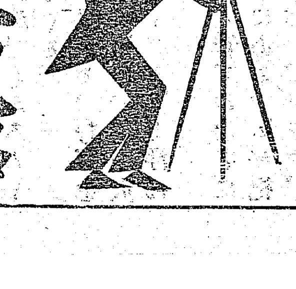
美術造花　葬儀用達
自轉車　卸商
附屬品

常磐線平町四丁目

山光堂　電話五五〇番

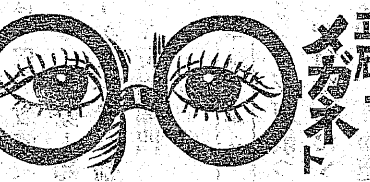
この季節こそ最も寫眞のよくとれる時です
何時でも出張撮影に應じます

平町仲田町



大野寫眞館

正確ナメガネト



無料検眼
各眼科院御用

根本時計店　眼鏡部　平田町　電話六七〇番

正確ナ體温器
寒暖計

關内藥局　電四〇二番

清涼宴會場

RESTAURANT

ホール　福島縣平町　電話四三九

公衆大席場

◆現代醫藥界ノ驚異

飮マズニ治ルコリサ浸透療法

肺、ロクマク、腹膜炎、リウマチス、神經痛治療藥

外用**コリサ**

◎論より證據百聞一見に不如
醫學博士…内野先生實驗　醫師…吉松先生發見

定價　一金四拾五錢、金九拾錢
一特大瓶醫家用…二圓七十錢
送料（内地十二錢　海外四五錢）

特約店　平町一丁目

大平屋藥舗　電話六四二番

◎實感希望者は郵券廿錢封入左記本舗へ申込あれ
試用藥と浸透療法の小冊子を郵送す
大阪市此花區吉野町一丁目　吉松醫院製劑部